

令和 2 年 4 月 26 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13318

研究課題名(和文) 徳倫理学における「道徳的な性格」という考え方の意義と可能性についての研究

研究課題名(英文) An Analysis of Moral Character in Virtue Ethics

研究代表者

立花 幸司 (Tachibana, Koji)

熊本大学・大学院人文社会科学部(文)・准教授

研究者番号：30707336

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：道徳を探究する現代の学問分野群にとって、アリストテレスを始祖とする徳倫理学のもつ可能性が注目されて久しい。本研究課題では、アリストテレス的徳倫理学のもつ優れたアイデアの一つである「倫理的な反応が求められている状況において、道徳原則に頼ることなく適切な反応を可能とする「道徳的な性格」」に焦点をあて、(1)現代の倫理学研究における「道徳的な性格」という考え方のもつ哲学的な意義を検討し、そして(2)この考え方が狭義の哲学倫理学のみならず、道徳性を研究する今日の経験科学に対してもつ可能性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アリストテレス由来の「道徳的な性格」という考え方は、現代の倫理学上の論争において登場するが、本研究課題では、この考え方が倫理学研究にとって有益な視座を与える理由を、徳を巡る近年の具体的な論争に沿って議論することで明らかにし、また、道徳性を研究する経験科学に対してもつ可能性についても、具体的な研究との接点を指摘しながら明らかにした。これにより、今後の「道徳的な性格」をめぐる研究を促進することができた。

研究成果の概要(英文)：Virtue ethics, which is originally based on Aristotle's ethics, has been a center of moral philosophy. This research focused on the notion of moral character and investigated the philosophical significance of this notion. It also investigated further possibilities that the notion has towards empirical sciences which study the related issues.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：アリストテレス 倫理学 徳倫理学 道徳 性格 状況 自然主義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「徳倫理学 (virtue ethics)」とは、道徳的に適切な判断や行為の根拠を、人にそなわる「道徳的な(有徳な)性格」に求める立場である。これは、個人に依拠しない普遍的な「原則・規則」を個別の状況に適用することで道徳性が担保されるとする義務論や功利主義と対置される。義務論と功利主義の二大理論による閉塞感のなかで、アリストテレスを現代に召喚するかたちで1950年代に再登場した徳倫理学は、「原則・規則」よりも「性格」を重視する反原則主義を標榜することで、哲学理論として注目されるのみならず、人工妊娠中絶の倫理的是非といった現実社会におけるさまざまな倫理的問題の解決の糸口を提供し、注目されている。他方で、「性格」などの心理学的概念を用いていることにより、経験科学の知見に基づいた批判もある。とりわけ、パーソナリティ心理学や社会心理学の知見に基づいた、道徳的な性格の存在を否定する「状況主義 (situationism)」からの批判 (Harman 1999; Doris 2002 など) と徳倫理学の間で分野を越えた論争が起きている。

申請者はこれまで徳倫理学における「道徳知覚」を検討してきた(若手 B・平成 26-28 年度)。そしてこの研究の流れの中で、「知覚」とどまらない「道徳的な性格」という考え方そのものが倫理的に重要な意義をもつことにあらためて気づき、当該の研究課題の最終年度にはそれに向けた考察を予備的に始め、その成果に好感触を得ていた。このように、本研究の背景は、研究領域における流れと立花自身の研究の流れの二つから成り立っている。

2. 研究の目的

道徳を探究する現代の学問分野群にとって、アリストテレスを始祖とする徳倫理学のもつ優れたアイデアの一つが「倫理的な反応が求められている状況において、道徳原則に頼ることなく適切な反応を可能とする 道徳的な性格」という考え方である。本研究では、この「道徳的な性格」に注目し、(1)現代の倫理学研究における「道徳的な性格」という考え方のもつ哲学的な意義を解明し、そして(2)この考え方が狭義の哲学倫理学のみならず、道徳性を研究する今日の経験科学に対してもつ可能性を解明することを、研究目的とする。

3. 研究の方法

研究の方法は、一般的な哲学研究のそれ、すなわち、文献の調査、分析、論点の洗い出しをもとにした、焦点の選定とオリジナルの議論の構築である。本研究課題では、とくに(1)徳倫理学と(心理学的・哲学的)状況主義との論争の含意について、先行研究では見落とされてきた視点を提示すること、そして、それを踏まえつつ、(2)心理学以外の経験科学の分野を参照しながら、道徳的な性格という考え方の哲学的な意義と学問的な可能性を検討することである。

4. 研究成果

初年度にあたる平成 29 年度は、道徳的な性格という、徳倫理学のもつ優れたアイデアの一つについて、そうした性格の習得をめぐる問題の先行研究を調査し、検討した成果を発表した。また、近年のニューロフィードバック研究をめぐる脳神経倫理的考察を土台として、二つの論考を刊行した。これらの論考を通じて、現代徳倫理学における道徳的な性格というもののもつ身分を、習得という観点から検討することができた。さらに、有人宇宙開発における宇宙飛行士の精神・心理的な側面での健康管理という宇宙医学・宇宙心理学研究に着目した論考も刊行した。この検討を通じて、道徳的な性格の習得の仕方について、新たな角度から検討をすることができた。

2 年度目にあたる平成 30 年度は、上述の二つの研究目的を架橋する研究に従事した。昨年度にひきつづき、脳神経倫理学におけるモラル・エンハンスメント(神経科学技術を用いた道徳能力の増強)をめぐる議論、また有人宇宙開発分野(とりわけ宇宙医学・宇宙心理学)における、国際宇宙ステーション内での宇宙飛行士の社会的道徳的パフォーマンスの維持をめぐる研究を参照しながら、さらにはキリスト教神学についての経験科学的研究なども取り入れ、経験科学と文化的伝統の双方を統合することに取り組み、その成果を発表した。

最終年度となる平成 31 年度(令和元年度)は、上記二つの解明のそれぞれ(および両者の繋がり)について、これまでの研究成果をとりまとめ、その成果を論文や図書、学会発表などのかたちで発表した。

三ヶ年度にわたる研究成果を通じて、本研究課題は概ね達成された。アリストテレス由来の「道徳的な性格」という考え方は、現代の倫理学上の論争において登場するが、この考え方は倫

理的発達のさまざまな構成要素にとって重要な概念であり、それゆえまた、道徳性を研究する経験科学にとっても、視座を与えるものであることを、脳神経科学研究と宇宙科学研究の二つの領域に着目することで、明らかとなった。他方で、当然であるが、この考え方の意義と、そして限界とが、すべて明らかにされたわけではない。これについては今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Koji Tachibana	4. 巻 2
2. 論文標題 Aristotle on virtue and friendship	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the XXIII World Congress of Philosophy	6. 最初と最後の頁 309-313
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5840/wcp232018221325	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Koji Tachibana	4. 巻 4
2. 論文標題 The dual application of neurofeedback technique and the blurred lines between the mental, the social, and the moral	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Cognitive Enhancement	6. 最初と最後の頁 397-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s41465-018-0112-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tachibana Koji、Tachibana Shoichi、Inoue Natsuhiko	4. 巻 140
2. 論文標題 From outer space to Earth: The social significance of isolated and confined environment research in human space exploration	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Acta Astronautica	6. 最初と最後の頁 273 ~ 283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.actaastro.2017.08.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tachibana Koji	4. 巻 66(2)
2. 論文標題 Neurofeedback-based moral enhancement and the notion of morality	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annals of the University of Bucharest: Philosophy Series	6. 最初と最後の頁 25 ~ 41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana Koji	4. 巻 33
2. 論文標題 Neurofeedback-based moral enhancement and traditional moral education	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Humana Mente: Journal of Philosophical Studies	6. 最初と最後の頁 19 ~ 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana Koji	4. 巻 48
2. 論文標題 Nonadmirable moral exemplars and virtue development	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Moral Education	6. 最初と最後の頁 346 ~ 357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03057240.2019.1577723	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Smith Kelly C., Abney Keith, Anderson Gregory, Billings Linda, Devito Carl L., Patrick Green Brian, Johnson Alan R., Marino Lori, Munevar Gonzalo, Oman-Reagan Michael P., Potthast Adam, Schwartz James S.J., Tachibana Koji, Traphagan John W., Wells-Jensen Sheri	4. 巻 110
2. 論文標題 The Great Colonization Debate	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Futures	6. 最初と最後の頁 4 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.futures.2019.02.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tachibana Koji	4. 巻 110
2. 論文標題 A Hobbesian qualm with space settlement	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Futures	6. 最初と最後の頁 28 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.futures.2019.02.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Szocik Konrad, Tachibana Koji	4. 巻 17
2. 論文標題 Research Viewpoint: Human Enhancement and Artificial Intelligence for Space Missions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Astropolitics	6. 最初と最後の頁 208 ~ 219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14777622.2019.1672509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 What we have to consider before considering a new life in space
3. 学会等名 SoCIA 2018: An Interdisciplinary Workshop on Social and Conceptual Issues in Astrobiology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Methodological naturalism and applied virtue ethics
3. 学会等名 Methods in Applied Ethics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 A neuroethical concern about the clinical application of recent neurofeedback techniques
3. 学会等名 Neuroethics: Re-Mapping the Field: Meeting on Neuroscience and Society, X Edition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Moral education and admirable moral exemplars
3. 学会等名 Virtue and Moral Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Posthumanism, the Supremacy of Survival, and the Meaning of 'Human' in the Forthcoming Space Era
3. 学会等名 Transhumanism, Posthumanism and Super-Naturalism: The 2018 Ian Ramsey Centre Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Aristotle on Friendship and Education
3. 学会等名 The 92nd Joint Session of the Aristotelian Society and the Mind Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Neurofeedback-based human enhancement and moral personhood
3. 学会等名 The Human Brain and The Human Person (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Virtue Ethics and Psychological Research on Human Performance in Space
3. 学会等名 Virtue Ethics and Psychology: Towards a New Science of Virtues? Aretai Center on Virtues 3rd Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Tachibana
2. 発表標題 Astronauts and An Empirical Study on the Virtuous
3. 学会等名 Virtues: Local or Universal? The seventh annual conference of the Jubilee Centre for Character and Virtues (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立花幸司
2. 発表標題 有人宇宙探査と徳倫理学のレンズ
3. 学会等名 科学基礎論学会2018年度総会 シンポジウム「宇宙科学の哲学の可能性 宇宙探査の意義と課題を中心に」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tachibana Koji
2. 発表標題 Nonadmirable Moral Exemplar
3. 学会等名 Aretai Center 2nd Annual Conference: Exemplars and Exemplarism; Theory, sources, and practices (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tachibana Koji
2. 発表標題 On the Reception of Aristotle's Theory of Moral Education in Japanese Academia
3. 学会等名 Understanding and Misunderstanding between the Far East and the West: Conference on East Asian studies in Remembrance of 210th Anniversary of Dr. Rev. Robert Morrison's Arrival at China (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 立花幸司
2. 発表標題 倫理的な発達における『手本』の位置づけについて
3. 学会等名 日本科学哲学学会第50回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tachibana Koji
2. 発表標題 Neurofeedback-Based Moral Enhancement and the Future of Human Evolution
3. 学会等名 Human Enhancement and Evolution: Scientific, Technological, Policy & ELS Considerations (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tachibana Koji
2. 発表標題 Socrates and Human Virtue
3. 学会等名 Nature, Human, Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tachibana Koji
2. 発表標題 The Third Socrates
3. 学会等名 Virtues and the Flourishing Life (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 伊勢田哲治・神崎宜次・呉羽真（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 viii+283
3. 書名 『宇宙倫理学』	

1. 著者名 納富信留、檜垣立哉、柏端達也（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 v+222
3. 書名 よくわかる哲学・思想	

1. 著者名 有賀誠、菊池理夫、田上孝一（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 v+269
3. 書名 徳と政治：徳倫理と政治哲学の接点	

1. 著者名 蝶名林亮 (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 vi+370
3. 書名 メタ倫理学の最前線	

1. 著者名 Joe T. Martineau, Eric Racine (Eds)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 VIII+257
3. 書名 Organizational Neuroethics: Reflections on the contributions of neuroscience to management theories and business practice	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ワークショップの企画と司会 ワークショップ「徳倫理学ワークショップ5 スポーツ・体育と徳育」、日本倫理学会第70回大会、山口大学吉田キャンパス、2019年 ワークショップ「教育の哲学の新たな可能性を探る」、日本科学哲学会第52回大会、慶應義塾大学三田キャンパス、2019年</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考